教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京科学大学拠点連携校共通
教育プログラム・コース名	連携7校共通：がん薬物療法専門医療人養成コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	医師、看護師、薬剤師、理学療法士
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	分子生物学を基盤とした臨床研究の発展により、様々な新規分子標的薬剤、免疫チェックポイント阻害剤が登場し、臨床現場で使用されるようになってきている。これら薬剤の適応や副作用マネージメントは診療科横断的になってきており、質の高い安全な治療の提供のためには、薬物療法に精通しかつ多職種間チーム医療を実践できるリーダーが求められている。本プログラムでは、関連大学間連携カンファレンスを介して、実際の症例を通じて経験を積み、適応力の高いの高い専門的医療人を育てることを目標としている。
修了要件・履修方法	所定の講義・実習を履修し、試験に合格すること。
履修科目等	講義：下記講義を知識基盤として習得する。 １．臨床腫瘍学総論（必修：腫瘍生物学、分子標的とがん治療、腫瘍免疫、サイコオンコロジー、効果判定基準、臨床試験（第一相試験、第二相試験、第三相試験）、オンコロジーエマージェンシー、ゲノム医療） ２．薬物療法総論（必修：殺細胞性抗がん剤、分子標的薬、ホルモン療法、免疫チェックポイント阻害剤、副作用と支持療法） ３．臨床腫瘍学各論（選択必修：造血器、呼吸器、消化管、乳房を含め6領域以上） ４．臨床腫瘍学演習（必修：症例検討会における症例提示、討論への参加（各大学で持ち回りで実施））
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（腫瘍内科専門医）（日本臨床腫瘍学会）、がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師（日本看護協会）、がん指導薬剤師（日本医療薬学会）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）などの研修施設として認定されている。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	連携大学間で行うプログラムは様々な職種の参加を予定しており、高度に細分化・専門化したがん診療に必要なチーム医療を疑似的に体験でき、幅広く症例知見を得ることができる。
指導体制	各参加大学やがんプロe-learningなどを活用して臨床腫瘍学の知識基盤を強化し、さらに参加各大学の輪番制による症例検討会で実践能力をあげる指導を行っていく。 【主たる指導スタッフ】 加藤俊介（順天堂大学 臨床腫瘍学 教授） 浜本康夫（慶應義塾大学 腫瘍センター 准教授）、 樋口　肇（国際医療福祉大学臨床腫瘍学 主任教授）、宿谷威仁（順天堂大学 呼吸器内科学 准教授）、末永光邦 （東京科学大学 臨床腫瘍科 准教授 ）、加納嘉人（東京科学大学 臨床腫瘍科 講師）
修了者の進路・キャリアパス	本コースと関連する専門資格（がん薬物療法専門医（腫瘍内科専門医）、がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師など）を取得し、がん薬物療法の専門医療人として大学病院、地域の中核病院、がん拠点病院にて多職種によるチーム医療のリーダーあるいはその一員として活躍できる医療者。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	12	12	12	12	12	60

受入目標人数設定の考え方・根拠	医師以外の参加と各大学からの参加者を2-3名/年と考え、12人/年と設定した。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	8					8